

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年3月30日(2006.3.30)

【公表番号】特表2002-503676(P2002-503676A)

【公表日】平成14年2月5日(2002.2.5)

【出願番号】特願2000-531476(P2000-531476)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/06 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 K 47/48 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/06 (2006.01)

A 6 1 P 19/02 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 29/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/18 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

C 0 7 K 16/28 (2006.01)

G 0 1 N 33/68 (2006.01)

C 1 2 N 5/06 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/06

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 K 47/48

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 17/00

A 6 1 P 17/06

A 6 1 P 19/02

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 29/00 1 0 1

A 6 1 P 31/18

A 6 1 P 43/00 1 0 5

C 0 7 K 16/28

G 0 1 N 33/68

C 1 2 N 5/00 E

【手続補正書】

【提出日】平成18年2月13日(2006.2.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 局在化された組織領域内でマクロファージの数もしくは活性の選択的低下により疾患を処置するための医薬の製造における、(a) 内在性の免疫グロブリンにより結合される部位と異なる部位でFcレセプターに結合する作用物質；および(b) マクロファージを殺すかもしくはその活性を低下させる作用物質を含んで成るマクロファ-

ジ結合性化合物の使用。

【請求項2】 Fcレセプターに結合する作用物質が、抗体もしくはその抗原結合部位である請求項1記載の使用。

【請求項3】 Fcレセプターが、Fcレセプター(FcR)もしくはFcレセプター(FcR)である、請求項1記載の使用。

【請求項4】 Fcレセプターが、FcRI、FcRIIおよびFcRIIより成る群から選択される、請求項3記載の使用。

【請求項5】 マクロファージ結合性化合物が、トキシンに複合化された抗Fcレセプター抗体もしくはその抗原結合部位を含んで成る、請求項1記載の使用。

【請求項6】 抗Fcレセプター抗体が、抗Fcレセプター抗体もしくは抗Fcレセプター単鎖抗体である、請求項5記載の使用。

【請求項7】 抗Fcレセプター抗体が、mab22、32および197より成る群から選択されるモノクローナル抗体、もしくはその抗原結合部位である、請求項6記載の使用。

【請求項8】 抗Fcレセプター抗体が、ATCC受託番号CRL1117を有する細胞株により産生されるヒト化抗体H22もしくはそのフラグメントである、請求項7記載の使用。

【請求項9】 マクロファージを殺すかもしくはその活性を低下させる作用物質が、ジェロニン、サポリン、エクソトキシンA、オンコナーゼ、リシンAおよびジクロロメチレンジホスホネート(CL2MDP)もしくはその誘導體より成る群から選択されるトキシンである、請求項1記載の使用。

【請求項10】 マクロファージを殺すかもしくはその活性を低下させる作用物質が、リポソーム内に封入されている、請求項1記載の使用。

【請求項11】 疾患が、マクロファージの高められた増殖および/もしくは成長因子分泌を特徴とする、請求項1記載の使用。

【請求項12】 疾患が、乾癬、アトピー性皮膚炎、強皮症、皮膚紅斑性狼瘡、ヒト免疫不全ウイルス感染症、多発性硬化症、リウマチ性関節炎、慢性多形性光皮膚症、慢性閉塞性肺疾患およびヴェグナー肉芽腫症より成る群から選択される、請求項1記載の使用。

【請求項13】 マクロファージの異常な数もしくは活性を特徴とする被験者での疾患の診断方法であって、被験者からの生物学的サンプルを、(a)内在性の免疫グロブリンにより結合される部位と異なる部位でFcレセプターに結合する作用物質；および(b)マクロファージを殺すかもしくはその活性を低下させる作用物質を含んで成るマクロファージ結合性化合物と接触させること；ならびに
サンプル中のFcレセプタータンパク質の量の指標としてFcレセプター結合のレベルを検出すること、を含んで成り、
かつ、Fcレセプタータンパク質の上昇された発現もしくはFcレセプタータンパク質を発現するマクロファージの数の増加がマクロファージ媒介性疾患を指示する、上記方法。

【請求項14】 マクロファージ結合性化合物が、検出可能な標識をさらに含んで成る、請求項13記載の方法。

【請求項15】 疾患が、乾癬、アトピー性皮膚炎、多発性硬化症、強皮症、皮膚紅斑性狼瘡、ヒト免疫不全ウイルス感染症、慢性多形性光皮膚症、慢性閉塞性肺疾患およびヴェグナー肉芽腫症より成る群から選択される、請求項13記載の方法。